

図 13. 2009 年伊豆大島構造探査により得られた速度構造と地震活動の関係（東京大学地震研究所 [課題番号：1413]）。上：エアガンと海中発破からのデータを用いて決定された P 波速度構造。下：伊豆大島におけるカルデラ内の地震（赤丸）、周辺部の構造的な地震（青丸）、マグマ貫入時及び後退時における圧力源の位置（星印）と地震波速度構造の関係。速度構造については上図中央部のクローズアップとなっているが縦横比が違うことに注意。

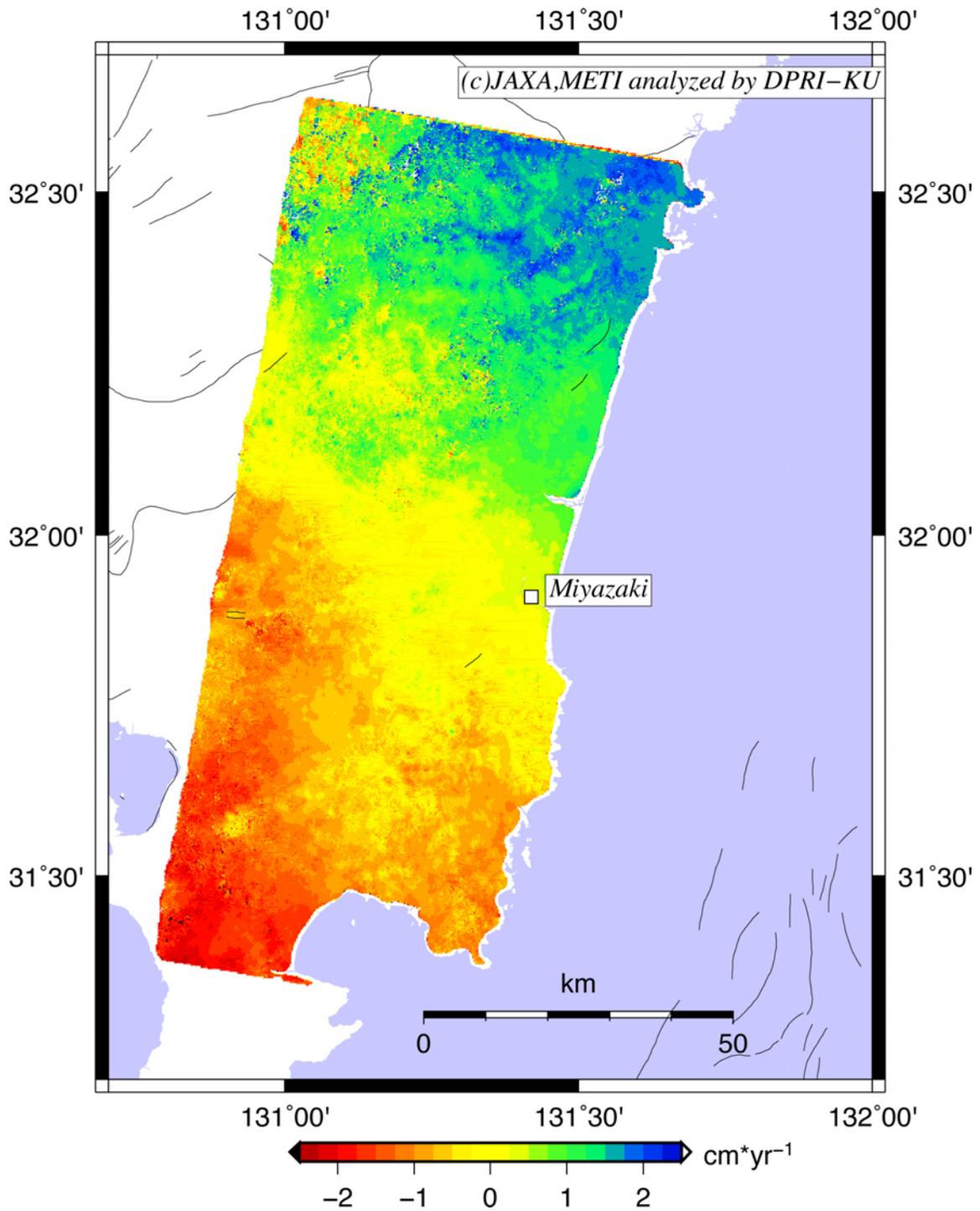


図 14. 日向灘沿岸の ALOS/PALSAR 画像 26 ペアの干渉画像のスタッキング処理で得られた平均視線距離変化速度分布 (京都大学防災研究所 [課題番号: 1805])。南行軌道で撮像された 2007 年 1 月から 2011 年 2 月までの 21 画像から軌道間距離が短い 26 ペアを選んで、干渉解析+スタッキング処理を行った。北から南に向かって距離変化率が減少する傾向が認められる。